
訂正のお知らせ

本誌第 33 巻第 4 号の S43 と S164 に記載の誤りがございましたので、下記の通り訂正いたします。

○ S43

1-2-SY44 演題タイトル

(誤)

積極的保存治療としての PRP 療法

その数値, 危険信号かもしれません — バイオケミカルモニタリングのすすめ.

Biochemical Monitoring in Athletes-Catching the Warning Signs Early

(正)

積極的保存治療としての PRP 療法

PRP Therapy as an Active Non-Surgical Treatment Option

○ S164

1-2-SY44 抄録

(誤)

PRP (多血小板血漿) 療法は, 近年, スポーツ外傷・障害に対する保存的治療として広く用いられるようになってきた. 特に, 組織修復の促進が期待されることから, 筋腱付着部障害, 靭帯損傷, 関節症に対する治療手段として注目されている.

一方で, その適応や有効性に関するエビデンスは疾患によって差があり, 最も科学的根拠が確立されているのは, 変形性関節症などの関節炎・関節症に対する治療である.

PRP 療法は, 単独での効果が過信されがちであるが, 実臨床においては理学療法との併用が極めて重要である. スポーツ障害の背景には, 動作不良や筋力不足などの運動機能の破綻が潜んでおり, PRP による組織修復と並行して, 機能的なリハビリテーションを行うことが再発予防と長期的予後の改善に直結する.

また, PRP 療法は他の保存療法と組み合わせた集学的アプローチの一環として位置づけられるべきであり, 数ある治療オプションの中の「一枚のカード」として, その特性を理解し, 適切なタイミングで選択することが求められる.

さらに, PRP の有効性を最大限に引き出すためには, 超音波ガイド下での正確な投与が必須であり, その前提として病態に応じた的確な診断が極めて重要である.

本講演では, 整形外科・運動器疾患領域における PRP 療法の最新の知見と課題を整理し, 理学療法を含めた保存的治療の中での適切な位置づけと活用法について述べる.

本講演では, これらのバイオマーカーを活用した実践例とその意義, そして今後の展望について紹介する.

(正)

PRP (多血小板血漿) 療法は, 近年, スポーツ外傷・障害に対する保存的治療として広く用いられるようになってきた. 特に, 組織修復の促進が期待されることから, 筋腱付着部障害, 靭帯損傷, 関節症に対す

る治療手段として注目されている。

一方で、その適応や有効性に関するエビデンスは疾患によって差があり、最も科学的根拠が確立されているのは、変形性関節症などの関節炎・関節症に対する治療である。

PRP療法は、単独での効果が過信されがちであるが、実臨床においては理学療法との併用が極めて重要である。スポーツ障害の背景には、動作不良や筋力不足などの運動機能の破綻が潜んでおり、PRPによる組織修復と並行して、機能的なリハビリテーションを行うことが再発予防と長期的予後の改善に直結する。また、PRP療法は他の保存療法と組み合わせた集学的アプローチの一環として位置づけられるべきであり、数ある治療オプションの中の「一枚のカード」として、その特性を理解し、適切なタイミングで選択することが求められる。

さらに、PRPの有効性を最大限に引き出すためには、超音波ガイド下での正確な投与が必須であり、その前提として病態に応じた的確な診断が極めて重要である。

本講演では、整形外科・運動器疾患領域におけるPRP療法の最新の知見と課題を整理し、理学療法を含めた保存的治療の中での適切な位置づけと活用法について述べる。